

柳原操基金・柳原義達顕彰事業 Y² project

水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち

Mizuno Katsunori Temporal Carvings, Wavering Forms

2026年9月1日(火)－12月27日(日)



柳原操基金・柳原義達顕彰事業 | Y² project

水野勝規 刻まれるとき、揺らぐかたち

Mizuno Katsunori Temporal Carvings, Wavering Forms

2026年9月1日(火)－12月27日(日)

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

開館時間 | 午前9時30分－午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 | 月曜日(ただし、9月21日(月・祝)、10月12日(月・祝)、11月23日(月・祝)はのぞく)、9月24日(木)、10月13日(火)、11月24日(火)

主催 | 三重県立美術館 助成 | 柳原操基金・柳原義達顕彰事業、公益財団法人三重県立美術館協会の

協力 | ARTCOURT Gallery、GALLERY CAPTION

水野勝規「fireworks」シングルチャンネルビデオ、2020年

三重県立美術館

MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

次代を担う美術家を発信する「Y² project」

第3弾は、映像作家・水野勝規を大規模に紹介

三重県立美術館は、戦後日本の具象彫刻界を代表する彫刻家・柳原義達（やなぎはら よしたつ、1910－2004）からの作品寄贈を機に、2003年に柳原義達記念館を開設しました。以来、同記念館では柳原の作品・資料を常時公開し、その顕彰に努めています。

2019年には、作家遺族の援助により、次代を担う美術家を発信する新たな事業として、Y² project（ワイワイプロジェクト）が始動しました。3回目となる本展では、三重県出身の映像作家・水野勝規（みずの かつのり）を紹介します。

水野は自然や日常の風景の中の何気ない事象を丹念にすくい取り、映像というフィルターを通して、ともすると見過ごしがちな光景を私たちの目の前に提示します。その作品は、時間のうつろいや日常のゆらぎへの再認識をうながし、「見る」ことへの興味をかきたてます。

ときが刻まれ、かたちが揺らぐこと——水野は、彫刻と映像という異なる表現メディアの中に、時間とともに生成される現象という共通点を見出し、柳原義達とその作品に向き合いました。本展では、当館が所蔵する柳原作品を作家自身が選び、自作とともに展示します。二人の作品が響き合い、織りなす空間にどうぞご期待ください。



① 「echo」 シングルチャンネルビデオ 2025年



② 「shade」 シングルチャンネルビデオ 2026年

作家略歴

水野 勝規（みずの かつのり）

1982年 三重県生まれ

2004年 カーネギーメロン大学短期交換留学（アメリカ）

2005年 名古屋造形芸術大学美術学科総合造形コース卒業

2008年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了

現在、京都を拠点に活動

成安造形大学情報デザイン領域 准教授

展覧会の見どころ

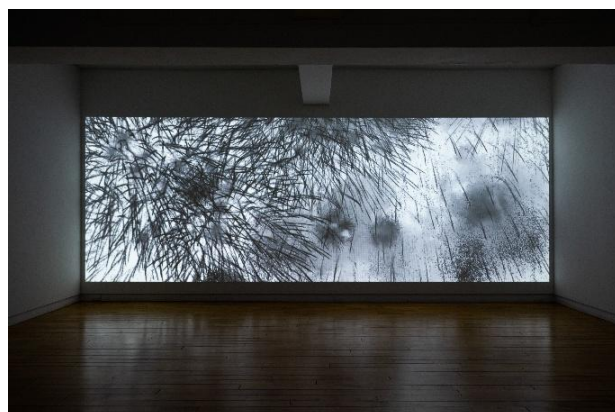
水野勝規、三重では 12 年ぶりの展示

当館で水野勝規の作品を紹介するのは、2014 年のグループ展「世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 10 周年記念 カミノ／クマノ―聖なる場所へ」以来、12 年ぶりとなります。この間、水野は名古屋、横浜、大阪など各地の美術館・文化施設での展示や映像芸術祭で作品を発表し、映像表現を深化させてきました。さらなる作風の展開にもご注目ください。

映像×彫刻、新たな展示空間

通常の個展では作家の作品のみが展示されますが、今回は三重県立美術館が所蔵する柳原義達（やなぎはら よしつな）の作品を水野がセレクトし、同じ空間に展示するという試みを行います。

展示場所となる柳原義達記念館は、ブロンズ彫刻の展示が映えるように自然光が入り、一般的な展示室よりも明るい作りになっています。また、季節や時間帯によっても光の状態が変わります。変化に富んだ空間で、柳原の作品との「共演」を水野はいかに展開するのか。作家の挑戦にご期待ください。



③「Light and Shade」展記録（GALLERY CAPTION）、
2020 年 撮影：大須賀信一

本展のために制作された新作も多数展示

本展準備中、水野は柳原義達ゆかりの地である神戸を取材し、映像、写真作品の制作に取り組みました。また、過去に発表した作品を読み直し、再解釈を加えて展示する予定です。

展示室だけでない、美術館全体へのアプローチ

今回は柳原義達記念館のみならず、館内各所でも独自の視点で展示を試みます。柳原の蔵書を公開している美術情報室や、柳原が影響を受けた彫刻家のひとり、ジャコモ・マンズーの屋外展示彫刻へのアプローチも展開されます。



④「view - light」
シングルチャンネルビデオ 2026 年

展覧会概要

会期：2026年9月1日（火）－12月27日（日）

休館日：月曜日（9月21日、10月12日、11月23日は開館）、9月24日（木）、10月13日（火）、
11月24日（火）

開館時間：午前9時30分－午後5時（入館は午後4時30分まで）

会場：三重県立美術館 柳原義達記念館

主催：三重県立美術館

助成：柳原操基金・柳原義達顕彰事業、公益財団法人三重県立美術館協力会

協力：ARTCOURT Gallery、GALLERY CAPTION

観覧料：一般 310（240）円、学生 210（160）円、高校生以下無料

- ・（ ）内は20名以上の団体料金
- ・この料金で「美術館のコレクション」もご覧いただけます。
- ・企画展をご覧いただく場合は、企画展チケットをお買い求めください。
- ・生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。
- ・教育活動の一環で県内学校（幼・小・中・高・特別支援）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。
- ・毎月第三日曜日の「家庭の日」（9月20日、10月18日、11月15日、12月20日）は団体割引料金でご覧いただけます。

同時開催の企画展

「生誕150周年 アルベール・マルケ展 水辺を愛した画家」2026年8月8日（土）－9月13日（日）

「ルーシー・リー展—東西をつなぐ優美のうつわ—」 2026年9月26日（土）－12月13日（日）

広報用画像について

本プレスリリース掲載の①～④の画像を広報用に提供します。ご希望の方は下記注意事項をお読みの上、ご連絡ください。ご希望の図版データをお送りします。

- ・作品画像のご使用は、本展の広報目的の場合に限ります。本展覧会終了後は使用できません。
- ・作品画像への文字のせ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載にあたっては、作品情報、クレジットを画像と一緒に記載してください。
- ・①～④の作家名はすべて「水野勝規」です。
- ・掲載物を一部または紙面データを美術館にご提供ください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合は、コピーガード（右クリック不可）をかけ、無断転載禁止の旨を明記して下さい。コピーガード対応ができない場合は、72dpi 以下もしくは 400×400pixel の解像度でご掲載ください。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 原 舞子、坂本龍太

〒514-0007 三重県津市大谷町 11

Tel: 059-227-2100（代表）／Fax: 059-223-0570／E-mail: bijutsu2@pref.mie.lg.jp